

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02172

研究課題名（和文）家庭養護婦派遣事業の普及の背景要因及びその影響の検証

研究課題名（英文）A Study on the Background Thought and Influence of Home-help Services

研究代表者

中島 洋（NAKASHIMA, Hiroshi）

中京大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：00531857

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：竹内吉正が1971（昭和46）年11月に行った欧州ホームヘルパー活動事情視察の実態把握と

その影響を実証的かつ具体的に明らかにした。1971（昭和46）年時に竹内が記した7種類の資料をKHCoderを用いて分析した。KHCoder分析の結果、「老人」「思う」などが頻出し、階層的クラスター分析では3区分、共起ネットワークでは5区分に分類できた。対応分析では「家族」「礼拝（教会）」「社協組織課長」が近接し、家庭生活や信仰生活による仕事への影響が認められた。視察の影響は一過性ではなくその後の省察や熟思が重要であり、記録物、講演会のほか、人間関係、宗教、団体の組織化などさらなる多角的検討が求められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ホームヘルプや施設介護を通じて行われるケアという行為は、通常「気遣い、気配り」などと訳されることが多いが、そもそもこの行為が軽視されてきた問題がある。さらに、「ケアはつねに権力が絡んでいる」ともされ、非常に政治的な面もある。こうした排他性や政治性がこれまでのケアにいったいどのような影響を与えてきたのかという問いへの探究は意味深い。本研究では、この大きな問題を解く前段として、ケアという社会構造的な問題をいったん歴史的に捉え直し、ホームヘルプ事業史という切り口から、その特質を考察し、その大きな問いを解明する糸口を見出すことに寄与した。

研究成果の概要（英文）：The objective of this study was to clarify the situation on the observation of home-helper activities in Europe(1971.11.4-20) by Yoshimasa TAKEUCHI and his influence.[Method] This study revealed the historical details of the observation. Quantitative text analysis was then performed using text mining.[Results] The results showed three main clusters organized by basic category. Three central concepts were revealed by co-occurrence network analysis. Furthermore, family life and faith life affected his job.[Conclusion] An Impact study on the observation was carried out by not only a temporary review but also through multi-faceted examination.

研究分野：社会福祉学

キーワード：家庭養護婦派遣事業 ホームヘルプ事業 竹内吉正 北欧視察 森 幹郎 小諸学舎 官民協働

1. 研究開始当初の背景

1956年4月に長野県上田市で創始された家庭養護婦派遣事業は、わが国初の組織的なホームヘルプ事業であり、農民生活や貧困問題にあえぐ当時の上田市民の生活改善・向上に寄与した点が意義深く、先行研究ではその起源が注目されてきた。しかし、同事業がその後、どのように普及したのか、あるいは同事業の影響はいかなるものであったのかについては十分に研究されていない。その際、同事業の実質的推進役とされる竹内吉正の存在は大きい。さらに、彼が当時、先進的であったホームヘルプ事業に着目しただけではなく、それを県の単独事業として組織化し、実践に結びつけたことで、長野県民の生活改善や課題解決に寄与したように創造性を発揮した点が意義深い。にも拘らず、その背景要因や伏線の解明については、先行研究が十分に及んでいないとは言い難い。このように、時勢を読み、必要な施策を構想した原崎の姿勢・思考を彼の前半生に遡って考究することは、政策決定の思考・哲学を理解するだけでなく、いかにして創造性を育み、必要な領域や施策をどのように拡げ、専門分野を開拓していけばいいかを探究することでもあり、今後の制度・政策を検討していく上で重要な視点をもたらすことになる。制度・事業の創設において、自明視されていることを問い直すことは私たちが今後社会構築や制度設計をする上でのヒントを見出すことになる。

2. 研究の目的

上記を踏まえた上で、次の3点を検討し、同事業の普及と影響について明確にする。家庭養護婦派遣事業の創設・普及をもたらした背景要因の検討、家庭養護婦派遣事業の普及のための具体的方法の検討、家庭養護婦派遣事業の影響(効果と限界)の検討。時勢を読み、問題・ニーズを捉え、必要な施策を構想・展開した長野県の取り組みを、その背景要因や影響にまで拡げて考究することは、政策決定の思考・特徴を理解するだけでなく、いかにして創造性や革新性を育み、必要な領域や施策をどのように拡げ、専門分野を開拓していけばいいかを探究する手がかりを得ることにもなり、今後の制度・政策の新設・再考において重要な視点をもたらすだろう。

3. 研究の方法

上記3つの課題を解明するためには、史料収集と聞き取り調査の両方が必要である。史料収集では、保健婦活動、日本赤十字社活動、満蒙開拓青少年義勇軍、上田明照会、短歌集団(潮音、白夜、湯の里会)などの関連史料の発掘・分析、『うえだ社協ニュース』、地元新聞紙、ラジオ放送番組、共同募金、現任訓練などの関連史料の発掘・分析、『現代日本の在宅介護福祉職成立過程資料集』(全6巻)の分析の3つが不可欠である。一方、活字にならない情報を収集すべく、聞き取り調査を行う。課題では、元保健婦、元日赤社員、元会員、現会員、原崎の子孫などを対象とし、課題では、横内浄音の子孫、竹内吉正の子孫、元市社協職員、元家庭奉仕員、元民生委員、元保護司、地域住民などを対象とし、課題では、元利用者及びその子孫、元県及び市社協職員、ホームヘルパー協会、厚生労働省などを対象とした。

4. 研究成果

ホームヘルプや施設介護を通じて行われるケアという行為は、通常「気遣い、気配り」などと訳されることが多いが、そもそもこの行為が「公的問題から、予め排除されやすい」などと、長らく公的に論じられる対象として扱われてこなかった問題が指摘される。さらに、「ケアはつねに権力が絡んでいる」ともされ、非常に政治的な面もあるという。こうした排他性や政治性がこれまでのケアにいったいどのような影響を与えてきたのだろうか。このような問題提起は何を示唆するものなのか。本研究では、この大きな問題を解く前段として、ケアという社会構造的な問題をいったん歴史的に捉え直し、ホームヘルプ事業史という切り口から、竹内吉正、森幹郎という二人の人物の「協働」に焦点化しながらその特質を考察し、その大きな問いを解明する糸口を見出すことを試みた。官民協働や中央と地方との関連を紐解く契機を明らかにした。

その一方、民間の立場から、長野県内のホームヘルプ事業を支えた竹内吉正が70代を迎えた1990年代に、小諸学舎(知的障害者施設)理事長として果たしていた職務や役割について探究し、具体的には、ソーシャルワーカーの資質向上、小諸学舎25周年記念事業、ホームヘルプ事業史の歴史的回顧、講演活動、シンポジウム・ワークショップへの参加、そして「小諸学舎運営指針試案」の作成に貢献していたことを明確にした。各種の制度・政策の対象から漏洩した人々にも目を向ける必要性があること、共助を基調とした問題解決の検討によって、人々が豊かな社

会を構築できること、属性や出自にかかわらず、倫理、人権、尊厳を守ること、施設内では最大公約数的課題への対応を念頭に置き、国際的視点や“民間”ならではの先駆性を生かしつつ、社会という集団のなかにおける個々人の「幸福な人生（福祉）」を指標とする意義などを、竹内が強調していたことが実証的に明らかにされた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 22(8)
2. 論文標題 <福祉の現場から>「ホームヘルプ事業早発地域の比較研究 長野県上田市、千葉県小糸町、香川県国分寺町、山口県南陽町を中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『地域ケアリング』	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 「ホームヘルプ事業推進者、竹内吉正の生育的背景とその家庭の影響 父、花里吉次郎の聖徳太子研究と家訓『以和為貴』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中京大学現代社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 61-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 「花里吉正の1940（昭和15）年 ホームヘルプ事業推進者における『孝』の道に焦点をあてて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中京大学現代社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 「ホームヘルプ事業早発地域の一考察 千葉県小糸町、香川県国分寺町、山口県南陽町を事例として」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中京大学現代社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 105-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 22(14)
2. 論文標題 <福祉の現場から>「ホームヘルプ事業史の原点研究 長野県上田市におけるKさんモデル説の年代別検討を通じて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『地域ケアリング』	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 「ホームヘルプ事業推進者、花里吉正の1941 (昭和16) 年 徴兵検査及び母の死に焦点をあてて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中京大学現代社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 127-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 「花里吉正の苦悩と未亡人を巡る諸問題 闘病中に記した『和峯記』(1950年3月~7月)の分析を中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中京大学現代社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 151-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 <福祉の現場から>「日英比較の視点から見たホームヘルプ事業史研究 竹内吉正による欧州ホームヘルパー活動事情視察をもとに」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『地域ケアリング』	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 「竹内吉正による民間社会福祉事業の模索と特別指定地区活動の展開 1960年代前半の日誌分析から」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会科学研究』	6. 最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 「女性の自立と『孤老とともに 続・ホームヘルパー奮戦記』 竹内吉正と中村登代子との関連」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会科学研究』	6. 最初と最後の頁 45-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 39(22)
2. 論文標題 「ホームヘルプ事業史におけるKさんモデル説の年代別検討 長野県上田市の事例から」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東北社会福祉史研究』	6. 最初と最後の頁 22-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 (20)
2. 論文標題 「ホームヘルプ事業推進者による第1回老人福祉文献賞受賞の意義とその後の思想展開 1970年代の竹内吉正を事例として」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会学論集』	6. 最初と最後の頁 165-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 老人家庭奉仕員派遣事業推進の背景要因の探究 長野県社会福祉協議会組織課長時代の竹内吉正の記録を基に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会科学研究』	6. 最初と最後の頁 79-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋・菊池義昭	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 「1900年と1901年の岡山孤児院の賛助員の全国的な支援ネットワークシステムの構築の実態」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会科学研究』	6. 最初と最後の頁 103-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 「1950年代から1960年代初旬の『うえだ社協ニュース』の特質 特集記事『小河滋次郎博士小伝』に焦点をあてて」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中京大学現代社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池義昭・中島 洋	4. 巻 20
2. 論文標題 「岡山孤児院の賛助員の全国的な支援ネットワークシステムの構築、展開過程の実態とその歴史的役割」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『石井十次資料館研究紀要』	6. 最初と最後の頁 80-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 60(3)
2. 論文標題 「家庭養護婦派遣事業推進の背景思想へのアプローチ 上田市社会福祉協議会事務局長時代の竹内吉正を中心に」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『社会福祉学』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 「終戦直後の花里吉正の闘病生活と誓い ホームヘルプ事業推進者の苦悩と成長に焦点をあてて」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中京大学現代社会学部紀要』	6. 最初と最後の頁 31-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 22(3)
2. 論文標題 「 <福祉の現場から> 家庭養護婦派遣事業の普及の背景要因及びその影響の検証」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『地域ケアリング』	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池義昭・中島 洋	4. 巻 38
2. 論文標題 「岡山孤児院の賛助員の全国的な支援ネットワークシステムの構築 1898年5月の着手から1899年までを中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東北社会福祉史研究』	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 (57)
2. 論文標題 「ホームヘルプ事業の推進者が受けた宗教的影響と社会復帰過程 1950年代前半における花里吉正と婦人宣教師E・L・Batesとの関わりを中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『社会事業史研究』	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 (19)
2. 論文標題 「竹内吉正による欧州ホームヘルパー活動事情視察の行程と成果」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『社会学論集』	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 40(1)
2. 論文標題 「児童福祉法成立以前の高知博愛園と岡上菊栄」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『社会科学研究』	6. 最初と最後の頁 39-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 洋	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 「長野県社会部厚生課における『現任訓練』の検討過程 ホームヘルプ事業の先覚者、原崎秀司の見解を通して」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『社会科学研究』	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中島 洋
2. 発表標題 「ホームヘルプ事業の発祥要因の検証が示唆するもの 長野県上田市におけるKさんモデル説の年代別検討を通じて」
3. 学会等名 日本社会福祉学会全国大会（第68回）【Eポスター発表】
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島 洋
2. 発表標題 「竹内吉正における家庭養護婦派遣事業の推進過程の研究」
3. 学会等名 2020年度後期 金沢大学大学院人間社会環境研究科ゼミ（社労ゼミ）報告 Zoom報告（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島 洋
2. 発表標題 「家庭養護婦派遣事業推進の背景思想へのアプローチ 上田市社会福祉協議会事務局長時代の竹内吉正を中心に」
3. 学会等名 日本社会福祉学会全国大会（第67回）、於 大分大学
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------